

## 平成 30 年度第 2 回和歌山市子ども・子育て会議

### 1. 日時

平成 30 年 1 月 29 日（火） 14:00～16:00

### 2. 場所

和歌山市勤労者総合センター 6 階 文化ホール

### 3. 会議次第

#### 1 開会

#### 2 福祉局長挨拶

#### 3 議題

(1) 幼保連携型認定こども園の認可について

(2) 特定教育・保育施設の利用定員について

(3) 和歌山市子ども・子育て支援事業計画の進捗状況について

(4) 和歌山市子ども・子育て支援事業に関するニーズ調査について

(5) その他

#### 4 閉会

### 4. 会議資料

資料 和歌山市子ども・子育て支援事業計画進捗状況

資料 1 幼保連携型認定こども園設置認可予定一覧

資料 2 特定教育・保育施設の利用定員の設定・変更申請施設一覧

資料 3 乳幼児健診状況 母子衛生統計（抜粋）

### 5. 会議経過

#### 1 開会

事務局

定刻となりましたので、ただいまより平成 30 年度第 2 回和歌山市子ども・子育て会議を開会します。本日の会議は委員 20 人の内 16 人の出席がありますので、和歌山市子ども・子育て会議条例第 6 条第 3 項の規定に基づき、本会議が成立しておりますことをご報告いたします。

#### 【資料確認】

#### 2 福祉局長挨拶

事務局

それでは福祉局長の川崎より、ご挨拶申し上げます。

福祉局長

皆さん、こんにちは。福祉局長の川崎でございます。開催にあたりまして一言ごあいさつを申し上げます。本日はお忙しい中、本会議にご出席いただきましてありがとうございます。

また、平素は本市の児童福祉行政の推進に、ご理解とご協力を賜り、ありがとうございます。

本日の会議では、4年度目を迎える現計画の進捗状況について、ご報告させていただくとともに、幼保連携型認定こども園の認可に関する事、特定教育・保育施設の利用定員についてのご審議をお願いいたします。多岐に及ぶ議題となりまして、限られた時間ではございますが、本市の次世代を担う子供たちのため、どうぞ活発なご意見・ご提言をいただきますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、委員の皆さま方の今後のご発展とご健勝をお祈りし、私の挨拶といたします。本日はどうぞよろしくをお願いいたします。

議長

みなさま改めてましてこんにちは。本日はよろしくお祈りします。のっけから私事ですが、私は貝塚市に住んでいまして、貝塚市は公民館活動が活発です。今もなお、脈々と続いています。30年前に子育てのネットワークづくりということで、親御さんたちを主体とした子育てサークルを30年間か続いてまいりまして、和歌山でもかけつけてくださいまして親が悩んでいるのは自分だけではないんだということが分かる公共的な空間な場が社会の中で大切だと確認しあいました。

本日は、進捗状況を報告してくださるということで、それにつきましてみなさまからのご意見ご質問をいただくということになりますのでよろしくお祈りします。

### 3 議題

会長

それでは、議題（1）の幼保連携型認定こども園の認可について、事務局からご説明をお願いします。

事務局（保育こども園課長）

資料1「幼保連携型認定こども園設置認可予定一覧」をご覧ください。幼保連携型認定こども園の認可申請状況についてになります。就学前の子どもに関する教育、保育等の総合的な提供の推進に関する法律第17条第3項に基づき、幼保連携型認定こども園の認可をしようとするときは、あらかじめ審議会等の意見を聞かなければならないとなっているため、議題とさせていただいております。現在、平成31年4月から運営開始の幼保連携型認定こども園として4園からの申請をうけています。内2園は保育所から、1園は幼稚園型認定こども園から、残り1園は幼稚園からの移行となります。なお、移行特例を使う項目を資料の一番右側に示しています。どの園も保育教諭等の資格の特例を使用し、名草幼稚園については、園児が少数となる時間帯の保育教諭と同等の職員の配置についての特例、みどり幼稚園では、既存園舎の使用、保育室を2階に設ける際に、必要な避難用屋外傾斜路等の設置について、幼稚園の既存園舎を使用する場合、耐火建築物であれば避難用必要な設備を備えることで足りるとする特例について、それぞれ適用して

認可する予定です。申請について最終調整をしておりますが、どの園も問題はないものとなっております。

議長

委員の皆さまからのご意見はよろしいでしょうか。

【異議なし】

議長

議題1については、以上となります。それでは議題2 特定教育・保育施設の利用定員について、事務局からご説明をお願いします。

事務局（保育こども園課）

資料2「特定教育・保育施設の利用定員の設定・変更申請施設一覧」をご覧ください。子ども子育て支援法第31条第2項に施設型給付による支給対象とする特定教育・保育施設の利用定員を定めようとするときは、あらかじめ審議会等の意見を聴かなければならないとなっておりますので、議題とさせていただきます。本市は現在も待機児童が発生しております。一つ目は先ほど、幼保連携型認定こども園の認可で説明した施設になります。利用定員については移行前と比較しまして、とうようこども園では、30人の増加、名草幼稚園で、18人の増加、みどり幼稚園で、170人の減少、山口こども園では、44人の増加となる予定です。ただし、みどり幼稚園に関しては、利用定員と現員の数が大きくかけ離れていますので、実質58人の増加となります。二つ目は、新たに特定教育・保育施設としての確認を受ける幼稚園の利用定員の設定です。利用定員を比較すると、鷺森幼稚園で40人の減少、ナザレ幼稚園で180人の減少となる予定です。こちらも利用定員と現員の数がかけ離れていますので、現員と比較すると、鷺森幼稚園で58人の増加、ナザレ幼稚園で18人の増加となります。最後に利用定員の変更になります。のぎき保育園で10人の定員が増加する予定です。

議長

どれでは、これらの説明について委員の皆さまからのご意見はよろしいでしょうか。

【異議なし】

議長

議題2については、以上となります。それでは議題3 和歌山市子ども・子育て支援事業計画の進捗状況について、事務局からご説明をお願いします。

事務局（子育て支援課副課長）

資料「和歌山市子ども・子育て支援事業計画進捗状況」に基づき説明。

議長

それでは、幅広いので順番に区切って委員の皆さまからのご意見を頂戴したいと思います。ではまず、1ページからの1子どもの健やかな成長を支える母子保健事業の充実について、ご質問ご意見をお願いします。

議長

では、先にこちらから一点、3ページ10番の乳幼児健診について、さきほど健診状況について説明していただきましたが、受診率は向上しているとありましたが、向上している要因はどのように考えられますでしょうか。また、和歌山市と同等の市と比べてどのようなものでしょうか。

事務局（地域保健課）

乳幼児健診の受診率については、中核市の中では高い傾向にあります。どこの中核市でも高い傾向にありますが、幼い子供ほど高い傾向にあります。受診率が高い要因ですが、和歌山市では子育て包括支援センターがあります。これは子育てに関しては、妊娠期から子育て期まで一括してみていく必要があるだろうという国の方針で、母子手帳を配布する際に、助産師等が面談を行い、情報提供を行っているため、受診率が高いのではないかと考えています。

議長

近年、包括支援センターが切れ目のない子育て支援を行っていくということで助産師が中心となって子育て支援を行っているという点から、受診率が高いのではないかというお答えでした。その他にございませんか。

委員

1ページ、5番の新生児訪問指導乳児家庭全戸訪問事業がありますが、3割が未実施ということです。さらに第二子以降については訪問拒否が多いとありますが、この対応についていかがですか。

事務局（地域保健課）

未実施件数が約3割とありますが、その人への対応については、基本的には拒否された人には電話で対応してます。訪問についてももう結構ですということが多いです。その理由としては、一人目で来てくれたのもういいですよという答えが多いです。拒否された人への対応について、全戸訪問は4か月までに訪問するようになっています。4か月健診の受診率は100%となっていますので、それまでに確認できていない家庭には、そこで確認することに努めています。

議長

他にございますか。

委員

5 ページ 19 番の 5 歳児相談事業ですが、私の大学が委託を受けている事業で、予算が 580 万円とあります。大学が 200 万円で受託しております。残りの 300 万円は 5 歳児相談される保健師さんの人件費になってきますでしょうか。それから、個別相談件数について、保護者の相談件数なのか、学校教育課に報告する件数なのか、教えてほしいです。

議長

予算と決算の金額についてと個別相談件数のカウントのしかたですね。

委員

5 歳児相談事業では、和歌山市のすべての保育所等に相談員がまわって、行動観察をしています。約 3 千名の年長児を対象にしています。保健センターでフォローされている人は除き、その他の子供たちの中で行動など発達に気になる場合に事前に相談シートに記入していきます。フォローされていないけれど、どうしても気になる場合に小学校に情報を提供する場合のシートの数かと思います。

事務局（地域保健課）

その通りです。生活調査について、保護者等に記入してもらいます。シート数が相談数ということではありません。

議長

それでは、1 についてはよろしいでしょうか。

委員

28 番の自殺対策についてですが、現状和歌山市における児童生徒の自殺件数は具体的に数字をお持ちですか。

事務局

保健対策課ですが、件数は把握しておりません。

議長

よろしいでしょうか。資料を求められますか。

委員

いえ、結構です。

議長

では、次に 2 子育ち・子育て支援の充実について、皆様のご意見をお願いします。

委員

60番の病児保育事業ですが、会議が進捗状況の報告ということですが、今後の方向性というのはいかがでしょうか。増やしていくのかどうかということをお聞きしたいです。

事務局（保育子ども園課）

病児保育についてですが、以前であれば1か所であったものが2か所に増やしております。それに伴って、お断りする件数は若干減少しています。1か所増やした病児保育の部分ではお断りしたことはないと聞いています。ただ、今後次期計画を策定する時に病児保育についてのニーズを把握した上で進めて行きたいと考えております。

議長

では、他にございませんか。

委員

36番の短期入所生活援助事業の充実についてです。平成31年度の目標値では334人となっていますが、これは受入可能な数字として設定されていますでしょうか。

事務局（こども総合支援センター）

受入可能な数字となっています。

議長

はいありがとうございます。39番の地域子育て支援拠点事業についてですが、31年度以降の予定として拠点施設そのもののあり方について設置数も含めて検討していくとありますが、現時点ですでに検討している内容でご説明していただけるものがあれば教えていただきたい。

事務局（子育て支援課）

現在認定こども園化を進めていますので、利用者数の減少が見込まれるため、設置場所について再度検討していきたいと考えている段階です。

議長

では、2はよろしいでしょうか。3子育てと仕事の両立支援の充実に関するご質問等をお願いします。委員のご意見も頂戴したいのですが、72番の学校行事への父親の参加促進とありまして、79.4%ということですが、現場の実感としてはいかがでしょうか。

委員

通常の参観日を土曜参観日と設定して日頃お仕事でお忙しいお父さんにも学校に来ていただけるようにしています。また、11月には学校開放月間として学校への参観を促進しています。

議長

ありがとうございます。では、続いて4様々な家庭への支援の充実に入りたいと思いますが、

みなさんいかがでしょうか。

みなさんお考えいただいている間に、お聞きします。基本的なところで、各施策の目標値の設定について、設定のあるものと無いものがありますが、どういったものが目標値の設定があって、どのようなものがないのか、枠組みがあれば教えてください。もうひとつ、数値目標を出すときの、何をもちって次年度の目標値は定められるものでしょうか。

事務局（こども未来部長）

目標値の設定は、設定する上で例えば児童扶養手当などについては、数値を設定することがいいのかどうかというのがあります。会議の中でも議論しています。また、目標値が多く見積もることがいいものと、少なくなるのがいいものとあります。相談件数などは少ない方がいいと考えられます。次年度の目標値については、前回のニーズ調査を元にして目標値を設定しています。

議長

ありがとうございました。委員のみなさんご意見いかがでしょうか。

委員

101番の前向き子育て推進事業ですが、平成30年度の講演会参加者数が9人ですが、平成31年度の目標値は150人となっていますが大幅な増加を見込みはどのように考えられていますか。

事務局（こども総合支援センター）

前向き子育てプログラムですが、大きく2つありまして、保護者に対する講習と講演会の開催があります。150人の目標値については、講演回数を充実する目標で進めていました。

事務局（こども未来部長）

150人というのは平成27年に計画を立てるとき、平成31年度までに到達したいということで設定したものです。到達していないことについてはこれからは改善及び目標値を見直していかなければならない点です。大きく見積もってしまったところはあります。

委員

どうして少なくなっているのかというのを教えてほしい。目標設定を150人と設定していて、実績平成29年度は26人で30年度は9人というのは何か理由があったからではないでしょうか。平成27年では150人を目標値にしてやってきたが、実際できなかった、設定が悪かったからという理由を説明していただければと思います。

事務局（こども未来部長）

平成27年の設定の時は、過大に設定してしまったということです。

事務局（こども総合支援センター）

グループワーク実施回数については、3回行ってまして24人です。講演会については、59人参加していただいています。合計すると83人になります。

#### 委員

9人と記載のあるところは、83人になるということですね。そのように説明していただければと思います。それから、達成されていないところを説明していただければと思います。達成できているところを説明していただくのもいいのですが、達成できていないところを説明していただければと思います。

#### 議長

グループワーク実施回数が4回で、参加人数が83人ということですね。子育て支援の親のための学習プログラムについてはとても重要ですので今後も強化を図っていただければと思います。

#### 委員

84番のトワイライトステイの件ですが、平成29年度の実績が227人とありますが、平成31年度の目標値が130人で既に目標を達成しているのですが、これはもっと高く目標値を設定してもいいのではないかとこのところがありますが、その点はいかがでしょう。

#### 事務局（こども未来部長）

第二期の計画の部分では、再度見直しを図りながら、また会議で意見をいただきながら設定していきたいと思っています。

#### 委員

目標値である130人を超えてもトワイライトステイは受け入れていただけてということですか。

#### 事務局（こども未来部長）

目標値は入れる人数、定員ではなく、このぐらいのニーズがあるであろうという予測があって設定しています。希望者が働き方やニーズがあり、預けたい方が多くあって受け入れていただいています。

#### 委員

トワイライトステイについては、いろいろなご意見あるかと思います。夜間にこどもを預けることがいいことなのか悪いことなのか、があるかと思います。和歌山市としては、拡大していく方向性なのか、ある程度で抑えるつもりなのか、いかがですか。

#### 事務局（こども未来部長）

ひとり親家庭などで夜こどもを見ることができないなどの理由で預けるケースですので、需要に対応していこうと考えています。減らしていこうとは考えていません。



## 委員

85番のひとり親家庭に対する日常生活の支援についてですが、ひとり親家庭は一定の方がいらっしゃるし、サポートも欲しい人はいらっしゃると思いますが、ここで目標値はないのと、実績もこんなに少ないのかと感じましたが、必要としたときに保護者から申請するのかこれは必要だと判断した時に問いかけて行くのか、どういうシステムでなっているのか。それともこの制度が周知されていないので利用されていないのか、教えていただきたい。

## 事務局（こども家庭課）

事前に登録していただいています。その後申請していただいて、委託を受けた団体の者が自宅等に行っていただいて掃除や食事の用意の支援を行っています。課題と問題点について制度を周知があります。ひとり親世帯の児童扶養手当の現況届の際に面談・面接していますが、その際に制度の説明をしていますし、市のホームページにも載せています。しかし実績としてはこのような状況です。

## 議長

制度の周知ということですが、課題・問題点の欄にはそのような事をもう少し書いていただければと思いますのでよろしくお願いします。

## 委員

97番の児童発達支援利用者数ですが、平成25年度実績からは人数が増えて、予算額も1700万円ほど増えていますが、今後の予算はまだ決まっていないかと思いますが、これからは予算的にも増やす予定で考えられていますか。

## 事務局（障害者支援課）

翌年度の予算を設定するに当たり、これまでの伸びなどを勘案して計上していきます。もちろん、その通りとなるかどうかは分かりませんが、足りない部分については、最終補正をしていく方向で考えています。

## 議長

他にございますか。

## 委員

89番障害のある児童の放課後児童クラブへの受入についてですが、受入クラブ数の目標値が30か所とありますが、現状が当初の目標の1.5倍の箇所となっているのは、ご尽力いただいているのかなと感じます。ただ、現状を考えると障害のあるこどもを受け入れることでどれくらい他の人に対して断らなければならない状況なのかなと感じます。把握されている部分があれば教えていただきたい。また、予定の欄や課題・問題点の部分で、加配をしていると書かれていますが、予算のついていないのに、加配ができていいのか心配します。

事務局（青少年課）

まず27年度の実績値と31年度の目標値については、30か所程度は対応できるようにと考えました。基本は、若竹学級40人に対し2人の指導員を配置するようにしています。現在市内の小学校で1名程度は障害のあるこどもがいらっしゃいますので受け入れを行っています。その場合3人の指導員の配置となり配置しています。予算は記載ありませんが、通常の若竹学級の欄で予算額を載せていますのでその中で対応しています。

議長

では、進めさせていただきます。

委員

110番の幼少交流研修会の充実についてです。課題と問題点で小学校と幼稚園が研修を行うことに調整が難しいというところです。今小学校で精神的や学習障害や道徳的な問題などを幼児教育の段階でいいところを伸ばすなど土台づくりをしなければならないと思います。小学校に送り出す前に詳しい内容を書かれている保育要領を、小学校の先生が読んでいただいてそれを参考にさせていただきたい。まだ小学校の先生方は、幼児教育は、まだ遊んでいると認識しています。今の幼児教育はこども主体として20年前からしているので、その辺をご理解いただければと思います。小学校側がしっかりと受け止めていただきたい。

議長

ご意見としていただきたいと思います。その他にございませんか。

委員

133番の子ども・若者相談支援の充実についてですが、サポステ登録者数は目標値をはるかに超えています。本学も社会への最後の窓口として、いろんな事情を抱えた学生がおりますので心理士が何回も面接をしてここにつないで、ひきこもりにならないようにつないでいくのですがこれがなかなか難しいと思います。これまでの人数を登録されているまでの経緯などを教えてほしい。

事務局（青少年課）

基本的に課の窓口等で相談に来られた方をサポートステーションにご紹介させていただいて登録をお勧めしています。ただ、これだけの人数が来られたかというのは分かりません。

委員

高校の先生方が、通常では就職できない生徒を連れてこられているようです。

議長

教員が間に入っているということですか。

## 委員

そうですね、そのような方もいらっしゃるかと聞いています。それから、質問ですが、確かに過去の資料を見ると多い年だと400人ほど登録されたこともあったようで、それが多ければいいというものでもなく、そこを経て支援を受けて最終的に就職に繋がって卒業していくのですが、その入った方が滞留している人はいらっしゃるのかな、と思います。

## 事務局（青少年課）

現実としては、把握していません。今後の課題としたいと思います。

## 議長

それでは、他にございませんか。では、あらたな取り組みとあわせて最後までのご意見等ございませんか。

## 委員

ひとつ前のところで申し訳ないのですが、進捗状況の確認のところ、講演会や出前講座など開催回数がありますが、人がどのくらい集まられているのかが分からないので、今後そのような点も抑えておいて欲しいと思います。例えば81番のひとり親家庭情報交換では、開催内容の記載がありますが、それぞれの参加人数が書かれていない点、70番の男女平等意識の啓発では、指導率は100%となっていますが、計画通りに出前講座が開催されていますが、開催して何人くらい参加があったかが分からないので、今後その記載があればいいなと思います。

## 事務局（こども未来部長）

担当課では、それぞれの開催数や開催人数などは把握しています。今回はこのような目標設定をしていますが、このような回答になっています。30年度については、年度途中になっていますので、目標値に達していない場合もあります。今後の目標値の設定については、次期計画については、もう少し分かりやすい設定を行うようにしていきたいと考えます。

## 議長

今後、目標設定については、考えていただければと思います。

## 委員

新たな取組として保育費用助成事業について記載がありますが、10月から幼児・教育の無償化が始まりますが、実費弁償についてはどうするのかをお伺いしたいです。現在紀州っ子政策では、2子3子については無償化になっています。給食費の主食が3000円、副食が4500円、となっていますから、それに物価上昇分600円ということになると、副食部分が直接徴収になることになるため、保育所がゼロになっているのに、副食分をくださいということになります。それは園から徴収することになります。まだ決定ではありませんが、一応年収360万円までは中で出入りする、それ以外は各家庭から徴収することになります。無償化になると言っても、給食費はくださいとなるとビックリされると思います。この部分を保護者に説明してほしい。会議

の際に無償化の説明をしてもらいたかったです。

事務局（こども未来部長）

30年度始まった事業として紹介しています。実費徴収については、情報として入っていますが、今後どのような状況で進めるかというのは、最終決定していませんでしたので本会議ではご報告できなかったということです。ただ、例年国の予算案概要については情報として会議の中でお渡しさせていただいております。市の中では、予算につきましては議会等もありますので、まだですが、10月の開始については、市の中で準備を進めております。

議長

他にございませんか。

委員

43ページの表の見方ですが、待機児童数が72名のということで、我々仕事上、UターンIターンを進めるなかで、待機児童数が少ないということのを売りにしているんですが、入園者数に対して確保方策の数が上回っていれば、理論的には全員入園入所できるということでしょうか。

事務局（こども未来部長）

基本的には自宅から5キロメートル以内の所の園に入るところがあるかどうかという判断です。5キロメートルを超えたところに入所できる場所があっても、待機児童というかたちになります。

委員

平成31年度の計画であれば、理論的には待機児童がゼロになってもおかしくないということですね。

事務局（こども未来部長）

当時は計画を立てた時は、これで十分いけるのではないかと考えていましたが、こども園の整備状況等が思うようにいかない点があります。また入りたいという需要の部分で入りたいけど入れないということが出てきています。特に0、1、2歳について、そのような状況です。4月現在をゼロにすることを第一の目標としていますが、達成できていない状況にあります。

委員

子どもたちが少しずつ減っていくのは予測していたかと思いますが、確保するというところは順調にきていると思われませんか。

事務局（こども未来部長）

保育所の全定員については、確保できていると思いますが、0、1、2歳については少し足踏

みしている状況です。

議長

それでは、よろしいでしょうか。では、議題4和歌山市子ども・子育て支援事業に関するニーズ調査についてご説明をお願いします。

事務局（子育て支援課）

ニーズ調査のアンケート内容について、委員の皆様には内容を検討していただきまして、その後10月に実施しました。回収について終了しました。速報値としてアンケートの回収状況を報告させていただきます。1月25日現在で、就学前保護者2500人に対し、回収数は1134人です。回収率は45.4%、小学生保護者については、配布数1500人に対し回収数671人、回収率44.7%、小中高生1024人に対し、回収数985人、回収率96.2%です。今後回収の変動があると思いますが、報告は以上です。

議長

議題にその他とありますが、事務局で何かありますか。

事務局（子育て支援課）

子供の生活実態調査について、1月ごろに和歌山県が発表するとしていましたので、本会議でもご報告させていただけると思っておりましたが、少し遅れているようです。和歌山県からは2月に結果報告があると聞いていますので、またお知らせさせていただきます。次回には県の報告及び市で独自で分析をする予定ですので、そちらの状況についてもご報告させていただきます。

議長

長時間にわたりましてご意見ありがとうございました。

事務局

議事はこれですべて終了しました。なお本日の会議録については後日各委員に送付させていただくとともに、内容を調整してホームページで公表いたしますのでよろしくお願い申し上げます。最後に子ども未来局長よりご挨拶申し上げます。

子ども未来部長

あいさつ

事務局

以上を持ちまして本日の子ども子育て会議を閉会します。ありがとうございました。

以上。